

「Verwandlung」

～予測分析シナリオ～

2017年7月8日

【基本構造】

- 私たち人類も含めた自然（じねん）は時に突き動かす力により、自らの意思とは無関係に動かされることがある。とりわけ人類社会の場合には全てが私たち自身の「意思」によってコントロールされている様に思いがちであるが、それは全くもって誤った認識なのである。むしろそうではなくて、あらかじめ太古の昔からビルト・イン（built-in）された目覚まし時計がある時突然けたたましく鳴り始めるかの様に私たち人類を突き動かし、その結果として人類社会全体が大転換を遂げていくというわけなのである。
- その時、最も注視すべきなのはそこにもまた永遠の法則としての「ルシャトリエの原理（Le Chatelier's Principle）」が働くという点である。具体的に言うならばそれまでは最も醜く、忌避すべき存在とされていたものが突如として変身（Verwandlung）し始め、むしろ真逆の存在、すなわち最も美しく、壮麗で、そうであるが故に全ての者たちの羨望の的となるのである。しかしそうした「変身」を遂げるもの自身は「なぜそうなるのか」について全くもって意識を持たないのである。なぜならばそうであることを実現するのは、そのものの明示的な意識ではなく、もはやそれを超越したところでのみ感じ取ることの出来る力、しかも突き動かす力（Drang）だからである。
- そうした中で最も大切なことは何か。それは「想像力」と「知性」である。私たちは普段、全ての物事を観念として理解しているかの様に「想像」している。すなわちその様なものとして自らの姿を「イメージ」しているのである。そして事実はこちらの「想像」によってのみ、把握されることは確かなのである。だが、それは時に単なる一個人の「妄想」ともとらえられるのだ。すなわち明らかに自然（じねん）を巡る種々の法則とは反しており、我執の下に思い描く勝手なイメージに過ぎないこともままあるのであって、それはそのまま現実になることなどあり得ないのである。そこで必要なのが「知性」である。過ぎ去りし世における無数の「歴史法則」に対する深い認識に基づきながら、同時にあらゆる立場の違いを越えた共通の言語（language）を探り当てることを通じて共に依って立つことの出来るプラットフォームを創り出す能力がこの「知性」である。そしてこの意味での「知性」をもって「想像（イメージ）」が捉えなおされる時、初めて偉

【各論】

（「日本バブル第2弾」がいよいよ始動した）

- 我が国は今年（2017年）5月末をもっていよいよ「日本バブル第2弾」に突入した（**パラメーター1**）。この時、「日本バブル第2弾」とは円高基調の下における我が国固有の資産バブルを指している。それと同時に第二次安倍晋三政権によって表向きは始動されたかの様に“演出”されてきた通称「アベノミクス」、すなわち円安誘導に基づく我が国における資産バブル展開という意味での「日本バブル第一弾」は終了した。現状認識としてまずはこのことをベースにして議論を行う必要がある。

（図表1 日経平均株価の推移（過去10年））



（出典：Yahoo!ファイナンス）

- なぜこの様に判断することが出来るのかといえ、我が国がいよいよ自らの経済的な特徴である「土地資本主義」を最大限利用した展開を自らの意思であらためて始動し始めたからである（**パラメーター2**）。我が国に存在する不動産の時価総額は米国勢のそれに次いで世界第2位である。したがって日本マーケットにおける高揚を“演出”したいのであれば何をさしおいても、まずはその不動産マーケットに「着火」しなければ何も始まらないのである。
- 具体的にはこれまで我が国における不動産投資信託（REIT）に対する融資はいわゆる「メガバンク」のみが行ってきたが、メガバンクの側において上述のタイミングでその融資債権を証券化し、地方銀行などそれ以外の金融機関への販売を始めたのである（**パラメ**